

1 岐阜市教育大綱【基本方針】

・学校・家庭・地域の誰もが生命の尊厳を理解し、互いに心を開く対話を重ね、一人ひとりが価値ある大切な存在としての互いに認め合う教育を推進する。

2 これからの時代

- ・進む少子高齢化、情報化、社会構造の変化→夢をもち、自らの進路を切り拓く力
- ・既存の事象にとらわれず、状況を判断して、創造・活用する力
- ・人とかかわりの中でつくられる社会→自他の理解→折り合いをつける力

3 地域・生徒の実態

- ・多様な価値観と家庭環境
- ・地域への誇り・愛着
- ・学習習慣の「二極化」
- ・気になる周囲の様子
- ・将来、社会や自分への期待と不安

4 目指す学校像

- ・どの生徒も個人や所属する集団に誇りをもち、自他を尊重することができる学校
- ・保護者や地域から信頼される学校

5 学校の教育目標・目指す生徒像：ひとりだち

○目標をもち自己の可能性を信じて挑戦し続ける生徒 ○人のよいところを見つけ自分に生かす生徒

6 本年度の重点： ○+□⇒☆「学校に行くことは楽しい」と実感できる学級・学校生活

① 学習：○「わかる」「できた」「楽しい」と実感できる授業

- ・「教科を学ぶ楽しさ」を広く実感できるよう工夫・改善し、主体的に学習に取り組む態度を培う。
- ・ロイロノート等を有効に活用し、学びを深めていく学習活動を工夫することを通じて、仲間と学ぶことの喜びを体感させ、学習意欲を高める。
- ・書くことやその他のような表現活動を通じて、学習したことを整理し、新たな学びの意欲をもつことができる。
- ・「探究」の時間を工夫することで、主体的に学ぶ態度、思考力や表現力、判断力を高める。
- ・スタディサプリ等を個に応じて活用させ、家庭学習と授業を繋ぎ、学習習慣と学力の定着を図る。

② 学校・学級生活：□「自分にはよいところがある」と思える自己肯定感の高揚

- ・願いや目標をもち、挑戦した事実をもとに、自己の可能性に気付かせ、自己有用感を育む。
- ・自ら生活を改善・創造する機会を位置付けることで活力のある自主的・実践的な態度を育てる。

③ 生徒指導：□「自分にはよいところがある」と思える自己肯定感の高揚 + ○

- ・信頼と愛情を基盤とした生徒理解に徹し、生徒の自立・自律を目指す。
- ・生徒との対話を通じて、生徒の言動や心のよさを価値付けることで自尊感情を醸成し、いじめの問題や問題行動の未然防止に努める。いじめの問題に対する認知力を高め、好ましい人間関係を育む。

④ 健康教育：○+□

- ・自分の健康・安全を自分で管理できる生徒を育成する。
- ・運動を通じて心身を鍛え、食育の啓発を通じて基本的な生活習慣作りを行う。

⑤ 道徳・人権教育：□

- ・生命や自他を尊重する態度を育て、温かい気持ちで思慮深い言動ができる生徒を育てる。
- ・自分のことと同じように他の人を大切にすることかできる生徒を育てる。

⑥ 特別支援教育：○+□

- ・自信をもち、自らのよさや可能性を伸ばす。

⑦ 進路・総合：□

- ・「ぎふMIRAI's」の趣旨をふまえ、校区の環境・福祉、防災・職業、平和・人権等の学習を行うことで、社会の一員としての自覚を促し、よりよく生きる願いを育む。
- ・地域に対する誇りや愛着を育む。
- ・地域の方々との交流を通じて、自己有用感を高める。

7 職員の心得：「生徒・職員・家族を大切にし、明るく元気な姿で生徒の前に立つ」

- ・お互いに謙虚に学び合い、資質向上をめざす職員集団→役割を察し、行動・会話 【慎重な言動を】
- ・生徒一人一人を全職員「チーム」+「一丸」で育てる⇒生徒に寄り添い「よさ」を認め伝える。
- ・人権感覚を磨き、生徒の変化に敏感で、いじめやトラブルの予防、早期発見・対応する。
- ・保護者との連携を密にし、迅速・丁寧・誠意ある対応に努める。【※一人で「抱え込まない」】
- ・「働き方改革」の推進【年休の計画的な取得、勤務記録による自己の管理、早く帰る日】